

会 議 録

1 会議名

平成29年度第5回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【協議事項】

平成30年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成29年12月11日（月）午後7時00分から午後8時13分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、小林奎一、佐藤寿美子、
佐藤峰生、坪田 剛、荷屋和夫、平野宏一、山田ヒロ子、横田正美
（欠席2名）

・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、千田主事

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：安達副会長に依頼

【滝澤センター長】

議題に入る前に事務局より11月21日（火）に開催された会長会議の内容について

報告させていただく。

- ・参考資料①「地域協議会会長会議」に基づき説明

【高橋会長】

今回の会長会議のテーマは、自主的審議をどのように進めていくかということだったが、各区で考え方が違うのだということを感じた。自主的審議は、単年度で解決できるものではなく、地域の課題を常に意識しながら継続的に審議していくのが一番良いのではないかと思った。単年度で結論を出すのではなく、ある程度時間を掛けていろいろ審議していく中で一定の方向が出て、もし、市へ提言することがあれば提言していく。最初から「何か市へ挙げなくてはいけない」という考えを持っている区もあったが、そうすると、テーマの設定ができなくなってしまうのではないかと思いながら会議に参加していた。

それでは議題に入る。【協議事項】平成30年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

【千田主事】

- ・参考資料②「平成29年度地域活動支援事業 谷浜・桑取区の採択方針等について」に基づき説明

【高橋会長】

ここ数年、配分額に対して残額が出ているが、これは当事業の周知が十分に出来ていないからではないかと思っている。

事業の事例としては、子育て支援や高齢者支援等いろいろあるので、もう少し工夫すれば何か地域を元気にする事業が出てくるのではないかと思っているので、皆さんからいろいろな意見を出していただければと思う。

地域の住民団体の皆さんが提案しやすいように、できれば、委員の皆さんがリードし、一緒になって提案していただきたいと思っている。

【安達副会長】

住民の方々はいろいろな案を持っているかもしれないが、それを形にしていく組織が作れないということが、当区の大きな課題ではないかと思っている。

例えば、「くわどり湯ったり村」等で野菜販売等をしている方々に「土・日のイベントや釣りをしている人もいるから海岸で販売したらどうか」と提案しても、構成員の高齢化が進んでおり、そこまでやるのは難しい、とおっしゃっていた。

庭先集荷の人たちもやりたいことはあるが、それを形にしていくところまではいかないとのことだった。

地域活動支援事業の募集期間は4月末までだが、大体の団体の会議が3月から4月に総会を行う。5月に総会をするところもある。そうすると、追加募集の際に提案するしなくなってしまう。その辺のもどかしさを持っている人もいるのではないか。

高橋会長が「委員がリードして一緒になって提案してほしい」と言われたが、これまでも佐藤峰生委員が所属する団体や、私自身も団体の担当者として、今まで何回か提案させていただいた。

【高橋会長】

今年も安達副会長が中心となり、花壇整備の事業を提案してもらったが、同じように委員から後押ししていただければ何かできるのではないかと感じている。

【荷屋委員】

委員もPRはしていると思うが、各団体の捉え方にも問題があるように思う。委員がリードをし、住民団体が地域活動支援事業として提案するとなると、提案に対する意識の違いなどいろいろな問題が出てくる。その問題をどのようにしていくかは私も悩んでいるところである。

【高橋会長】

地域活動支援事業に多数の提案が出てくればいいが、そこまでいかない場合は、我々がけん引役にならないといけないと思う。

【滝澤センター長】

当事業が始まった当初、補助金の使い方として「市の執行事業」と「団体が行う事業」の2つがあった。ハード事業に対して多くの費用が掛かるため、当補助金制度が開始した当初は、ハード事業の提案が多かったイメージがある。

当制度については、地域を活性化していただきたいというところから始まった事業で、提案団体も5名集めていただければ誰でも提案できるという事業である。

事務局としては、毎年説明会を行っているが、同じ団体に声を掛けても提案は増えないと思っている。まず、「何かをやりたい」というところから拾っていき、そこから団体を作っていただければと考えている。

地域の人たちが誰でも提案できるようなやり方ができれば良いと思っているが、事務局としても、どのようにPRしたら良いかを考えている。平成28年度から委員になら

れた皆さんの中には、地域活動支援事業自体を知らなかった人もいたと思う。当事業も提案へのハードルが高いと浸透しない部分もあると思うので、いろいろな場面でPRしていただき、紹介していただければ事務局も提案者の相談に乗っていきたいと考えているのでお願いしたい。

【平野委員】

提案されている人たちは一所懸命考えて提案書を出されている。今後のことを考えると、それを「不採択」という一言で終わらせないようにしたほうが良いのではないかと。不採択になった場合、地域協議会から不採択理由を言うのではなく、事務局から提案者へ伝えている。そうではなく、地域協議会の代表である会長と事務局で懇切丁寧に説明したほうが良いのではないかと。

そして、配分額に補助希望額が満たない場合、柔軟に判断しても良いのではないかと。不採択にし、配分額を余らせ、市へ返すというのは間違っていると思う。

配分された補助金は、谷浜・桑取区のために精一杯使わなければいけない。何をするにしてもお金は掛かる。

これからは、提案されたものを丁寧に審査し、配分額に残額が生じれば有効に活用してもらおうという方向性を持たないといけないのではないかと。

【高橋会長】

不採択理由を提案者へ伝える際は、必要に応じて会長や副会長も一緒になって事務局と一緒に伝えたいと思う。

残額の扱い方については、税金を使っているため、どんな提案に対しても採択するというのはおかしいのではないかとという意見もあるので、皆さんで判断しながら決めていきたい。

【平野委員】

参考資料②の「優先的に採択する事業の分野」の地域振興事業の中に「中山間地における再開発」や「観光広報」、「耕作放棄地復元モデル事業」等が入っているが、耕作放棄地に関しては農業委員会でも話には出るが前には進んでおらず、挫折の連続である。

耕作放棄地については、整備にかなりの費用が掛かり配分額の500万円では足りないので、当事業の範疇には入らないのではないかと。

【高橋会長】

確かに基盤整備をしてまで行くとすると大変な話だが、個人で無農薬栽培をして頑張

っている人もいる。そういうものに対して支援できることがないかと考えている。

【荷屋委員】

それは難しい。栽培を行っている人は良いかもしれないが、周りで畑作業をしていた人に迷惑を掛けるかもしれない。

【平野委員】

みんなで一斉に実施するのなら良いのかもしれない。

【高橋会長】

エリアを決めて行うのなら良いのではないかと。

【平野委員】

そこはなかなか決まらない。

【高橋会長】

今言っているのは一例であって、どうしても提案してほしいというわけではない。

例えば、無農薬の野菜を、インターネット等を通じて買ってもらい、地域おこしが出来たら良いのではないかと。観光面でも観光協会任せではなく、「くわどり湯ったり村」と連携して桑取地区のほうまで来てもらえるような観光アピールをすとか、いろいろな工夫をすればできないことはないのではないかと考えている。

本年度「くわどり謙信公トレイルランニング大会実行委員会」に提案してもらい、「くわどり謙信公トレイルランニング大会」を一所懸命盛り上げていただいた。今後、「くわどり謙信公トレイルランニング大会」が根付いていってもらえるのならば、2、3年は継続事業として支援していければと思う。

【平野委員】

谷浜・桑取区も少子高齢化が進んでいるが、若い世代と意見交換を行いたいと思っている。

【佐藤峰生委員】

私の町内には園児と小学生を合わせて6人いる。当区の自主的審議事項として「子育て支援」を挙げているが、子育て世代の保護者の方々は何を支援してもらいたいのかを次回の協議会までに確認しようかと思っている。

「子育て支援」というテーマに対しての課題を出していき、それを何個かに分けていく。何個かに分けた課題を具体的に実現して実施する団体を作ったり、来年度の地域活動支援事業は子育て支援に特化して予算の半分を充てたりするのも良いのではないかと

考えている。

実際に子育てをしている人たちを地域として支援していくことも必要なのではないか。

以前、テレビで見たが、ある村の予算のほとんどを子育て支援のために使っており、ほかの予算が足りなくなったら、民間と一体となり共助でやっているという番組をしていた。

谷浜・桑取区の配分額を何に使ったら有効的なのか、ということを考えて使うことも一つの手法なのではないか。

【佐藤寿美子委員】

団体はどのように作るのか。私は夏休みに子ども達を集めてイベントを行ったが、午前中にゲームや運動をさせ、昼食を作って食べ、午後からはまたゲームや運動をして一日過ごす、それは運動推進委員と食生活推進委員で行うので市の事業になってしまい、地域活動支援事業の予算は使えない。だが、結局ボランティアとして行っているため個人のお金を使うことになる。

【高橋会長】

先日の会長会議で「市の事業にも地域活動支援事業の補助金を使えるようにする」、「市の事業でも地域協議会で認められれば実施して良い」という方向で考えてもらえるよう話をした。それが可能になれば、公民館ですこやかサロンを行っているが、それを少し膨らませた形の事業を地域で行うこともできるようになる。

【佐藤寿美子委員】

運動推進委員と食生活推進委員が行う事業に対しては市から何も補助が出ないので、自分たちの負担にはなっている。

【滝澤センター長】

佐藤寿美子委員が言っているのは、運動推進委員と食生活推進委員が行っている事業だが、運動推進委員や食生活推進委員の人たちが集まって行っているだけで、市の事業ではなく、地域独自の事業のことだと思う。だが、それは住民団体として地域活動支援事業に提案していただければ可能なのではないかと思う。

子ども達を集めて行うイベントは1回だけなのか。

【佐藤寿美子委員】

夏に1回行うだけである。来年はお年寄りの方たちにも参加してもらおうかと考えている。

【滝澤センター長】

イベントを通して地域の輪が広がっていけば、とても良いことである。

先ほど、高橋会長から市の執行事業についての話があったが、現時点でどのようになるのかは決まっていない。

【高橋会長】

市の執行事業を実施したくない区もあると思うが、それは地域協議会の判断に任せてほしい。是非、そういう方向で見直してほしい。

【平野委員】

市の執行事業というのはどういうものなのか。

【滝澤センター長】

市の公の施設、例えば、公民館等のトイレの修繕や机、椅子を更新したいとなった時に、住民団体が勝手に整備することはできない。そのため、地域活動支援事業の補助金を活用し、市の担当課が市の責任の元、整備する事業である。だが、平成26年度からは市の執行事業は、地域活動支援事業から除外した。

【高橋会長】

市の執行事業なのかどうかという区別が難しいという点もあるが、地域でどうしても必要だということであれば補助金を使えるようになれば良いと思っている。

何故、市の執行事業が除外になったのかと言うと、例えば、高田区や直江津区は市の執行事業までやっていたら予算が足りなくなってしまう。市の執行事業を止める時も相当な議論をして今の状態になったが、あまり規模が大きくない地域協議会からは市の執行事業にも使えるようにしてほしいという意見は出ていると思うので、そのような方向に進んでいってほしいと思っている。

【横田委員】

市の執行事業でも良いのなら避難所に指定されている増沢にある旧桑取分館のトイレを洋式に替えてほしいと思っている。

ソフト面については、毎年少なくなってきているが、団体の方々も高齢化してきていて、ある程度慣れてくると守りに入ってきてしまい、現状維持をすることで精一杯になってきている。

桑取地区の生産組合の方々も各地でイベントがあればどこへでも行っていたが、それも苦になってきて、どんどん規模を縮小している。老人会も、自分たちだけで活動して

いるなら無理に新しいことをやらなくても良いと思ってしまう。今いる方々から何か提案してもらおうと思っても出てこないのではないか。それならば、先ほど平野委員が言っていた若い世代や消防団、青年部の人で50歳くらいまでの人たちと意見交換を行い、困っていることや不満を出してもらうのが良いと思う。想定を超えるような意見も出てくるのではないか。どの機会で行うかという問題もあると思うが、話し合いの場を設けていただきたいと思います。

【小林委員】

私は、平野委員とは反対の意見で、税金を使って事業を行うのだから是が非でも使わなくてはいけないものではないと思っている。

市の執行事業については、備品として残るし、予算の使い方としては有効だと思っているので是非復活していただきたい。

【佐藤寿美子委員】

今年、中学生がたにはま公園から加賀街道を通り、海辺のほうまで歩く行事と一緒に参加した。そして、桑取地区へ行く道の途中から山へ入り「くわどり市民の森」まで歩いていく行事にも参加した。中学生との話し合いもしてみたいと感じた。

【佐藤峰生委員】

先ほども言ったが、谷浜・桑取区の最重要課題を何項目かに分けて、何か年かの計画を立ててやっていったほうが良いのではないかとと思っている。

【坪田委員】

参考資料②の優先的に採択する事業の分野の中に「観光」とあるが、観光を考えると、谷浜観光協会しか思いつかない。以前から観光に関わる問題としては、何とかして活性化してもらいたいという思いがあるが、一地域のことと考えると、なかなか提案しづらいというのがある。そういうものが払拭できればいろいろなものが出てくるのかもしれない。

参考資料③を見ると、当区は追加募集の際に多数の提案が出てくる傾向にあるように思う。当初募集ではあまり出てきていない。当初募集の提案件数が少ないために残額が多くなると、追加募集で多数の提案が出てきて不採択になってしまう可能性もあるので当初募集の段階で何か対策が取れないかとと思っている。

【高橋会長】

今年の1月、防災研修会や学校後援会の総会の際に出席していた町内会長の皆さんと

意見交換を行う場を設けていただいた。総会の場には地域協議会委員も何名かいるので、地域協議会の理解を得られるような申し入れをして、改めて話し合う機会を設けられれば良いのではないかと考えている。

地域の課題は町内会長のほうが把握していると思うので、その課題についてどう解決するのかということについては、地域協議会委員も一緒になって考えられればと思っている。

本日の会議では採択方針を決めないで、次回の協議会までに考えていただき、皆さんからいろいろな意見を出していただければと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【千田主事】

次回の協議会についてだが1月下旬を考えている。現段階で都合等があれば教えていただきたい。

【高橋会長】

— 各委員の日程を確認 —

では事務局と調整をし、早い段階で皆さんへお知らせしたいと思う。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。